

(公開学習Ⅰ) 小学校第3学年2組 社会科学習指導案

授業者 新家 恵一郎
小学校 3年2組 教室

1 単元名 くらしをまもる ～消ぼうのしごと～

2 授業構成

(1) 教師と教材

本単元では、新学習指導要領の次の内容に位置づけられている。

内容(2) 地域社会における災害及び事故の防止について、次のことを見学、調査したり資料を活用したりして調べ、人々の安全を守るための関係機関の働きとそこに従事している人々や地域の人々の工夫や努力を考えるようにする。

ア 関係機関は地域の人々と協力して、災害や事故の防止に努めていること。

イ 関係の諸機関が相互に連携して、緊急に対処する体制をとっていること。

この内容について、本単元の前半に「公助」の消防署について理解する。後半では消防署だけではなく、地域の消防団、自主防災組織といった「共助」の取り組みに着目する。これらの「公助・共助」それぞれ取り組みを知ることや「自助」について考えることで、安全なくらしを守るとはどのようなことなのかという子どもの社会認識を発達させることにつながると考え、本単元を設定した。

本時の学習は、消防署の見学を終え、附属小学校の消火活動配置図の読み取りから、

・なぜ、ここに消防車が配置されるのか。

という課題を持たせるように展開する。学校で火事が起きた際、消防車が効率よく配置されるための根拠を、消火設備や水利と関連づけながら考えることができるような授業を構成した。

(2) 子どもと教師

本校の社会科のテーマは「社会認識を育てる支援のあり方」である。事実在即して、社会事象を多面的に思考するよう学習を展開したいと考える。また、個別の具体的な事象から、他の事象についても知り、共通点や相違点を見出し、一般化した概念を獲得するという見方や考え方を育てたい。

本時までには、児童は学校内の消火設備の調査や湖山消防署見学で消防車の台数や種類、消防署員の数、出動の仕組みなどの知識を獲得してきている。

本時では、これまで得てきた知識をもとに自分ならどこに消防車を配置するか問いかけ、自分なりの配置を予想させる。そして、その予想を検証するために、湖山消防署が計画した配置図を見せる。予想を検証するために必要な情報(消火栓の位置、水利)をこの図から読み取る力を養いたい。

また、鳥取大学農学部でも同様に消防車等の配置を計画してあることを知らせ、

・事前に配置を決めておくことで、緊急時に迅速に対応できるようにしている。

という緊急時に対する姿勢を捉えさせたい。また、これらの配置には理由があるということを地図から読み取ろうとする学び方を育てたい。

(3) 子どもと教材

本時の学習では、「附属小学校の家庭科室から出火。自分ならどうやって消防車を配置するか。」と問いかける。児童は湖山消防署の見学から得た知識をもとに、自分なりの消防車配置計画を立てると予想される。黒板にはられた地図の上で消防車を操作させ、自分の考えの根拠を明らかにしながら発表させたい。仮説を立てた後、湖山消防署の考えた配置図を見せる。なぜ、そう配置するかを地図から読み取らせ、消火設備、水利、消防車の機能を理解させたい。また、中高層建築物(4階以上)については、はしご車やポンプ車の配置図が用意されている。鳥取大学農学部が火災の場合の配置図を見せ、こうした事前の準備がしっかりとなされ、自分たちの生活の安全が守られているということに気付かせたい。

3 単元の目標

- ・消防署で働く人の仕事の工夫や努力を知るとともに、火事が起きたときの関係諸機関の緊急事態に備えた連絡・活動の仕組みを理解する。
- ・自主防災組織について見学・調査したり資料を活用したりして理解し、地域の人々が協力しながら自分のまちのくらしを守るために様々な工夫や努力をしていることを考える。

4 学習計画（全 13 時間）

段階	学習活動・教師の発問	予想される児童の反応	資料
導入	1 学校の中を歩いて、消防設備について知る。 (1) ○学校の中に、火事が起きたときに役立つ設備があります。さがしてみよう。	・天井に何かあるよ。 ・大きな扉が廊下にあるね。 ・消火器があるよ。 ・ボタンがついている四角い箱があるよ。	・校舎内地図
展開 I	2 119 番通報の仕組みを知る。(1) ○119 番したら、その後はどうなるんだろう。 図を見て話し合おう。	・119 番したら、通信指令室につながるんだね。 ・いろんな場所と協力しているね。	・119 番通報の流れをしめた図 ・場面絵
消防署	3 消防署を見学しよう。(3) ○消防署にはどんな人がおられるかな。どんな設備があるのだろう。	・いろんな種類の消防車があるんだね。 ・消防士の服装は特別な服だね。	・湖山消防署 ・場面絵
のしご	4 学校で火事が起こったら、どのように消防車が配置されるか話し合う。(1) ○家庭科室から火が出た。どうやって消火活動が行われるかな。(本時)	・湖山消防署から消防車が来るんだよね。 ・どこに消防車が置かれるといいのだろう。 ・消防車を配置するのには理由があるんだ。	・場面絵 ・校舎の地図 ・消防署作成の配置図
と	5 火事がないときの消防署の仕事について話し合う。(1) ○火事がないときは何をしているのだろう。	・火事がないから働かないのではなく、訓練や検査など、日々行っている。	・見学したときの資料 ・インタビュー資料 ・写真 場面絵
展開 II	6 消防署員の勤務体制について話し合う。(1) ○どうやって 24 時間いつでも出動できるようにしているのだろうか。	・交代で勤務にあたっているんだね。 ・24 時間、ずっと署におられるんだね。	・勤務体制(ローテーション)の表
地域	7 地域には消防団や自主防災組織があることを知る。(1) ○消防団や自主防災組織ってどのようなことをしているのだろう。	・お父さんが消防団に入ってるよ。 ・地域で訓練をしたのを見たことがあるよ。 ・消防団は地域における防火防災のリーダーだ。	・茶屋地区の自主防災訓練の様子 ・家庭での調べ学習
取組	8 消防団の人のお話を聞こう。(1) ○どんな気持ちで消防団の仕事をしておられるのだろうか。	・「自分のまちは、自分たちで守る」という強い気持ちがあるんだね。 ・消防署の力だけでは限界があるんだね。	・消防団活動の写真
み	9 なぜ自主防災組織や消防団が必要か話し合う。(1) ○防火防災のプロとして消防署があるのに、なぜ人々は自分たちでこうした取り組みをしているのだろうか。	・消防署がたくさんあるとはいえ、近所の人同士で協力し合い、命を助け合わない、間に合わないことがある。 ・阪神淡路大震災の時は、地域の人々の協力でたくさんの命が救われたんだ。	・阪神淡路大震災時の人々の取り組み ・鳥取県防災・危機管理対策条例(仮称)
最終	10 消火活動、防火防災の取り組みについて場面絵にまとめよう。(2) ○消防署の仕事や地域の人々の取り組みを場面絵にし、防火、防災についてまとめよう。	・始めは火事が起こったときのことしか見えてなかったけど、いろんな取り組みがあったね。 ・関係機関や地域の人々の協力が大切だね。	・場面絵

5 本時の学習について

(1) 本時目標

- ・火災発生時の消防車等の配置図を読み取る活動を通して、配置には消火設備や消防車の機能が大きくかかわっていることを理解することができる。

(2) 期待される児童の様相

- A 消防車等の配置図を見ながら、その理由を消火設備や水利、機能と関連づけながら説明することができる。
- B 消防車等と消火設備や水利との位置関係を理解することができる。
- C 消防車の配置や消火設備の位置に気がつくことができる。

(3) 本時の展開 (○教師の意図 ◇支援)

学 習 活 動	教師の支援・意図
1. 消防署見学の写真を見て、見学でわかったことを発表し合う。 ・いろいろな種類の消防車があったね。 ・出動にかかる時間はわずかだったよ。 ・訓練をしていたね。	○湖山消防署見学の写真黒板に掲示し、学習意欲を喚起するとともに、様々な発見を整理する中で、本時のねらいへと迫っていきたい。
2. 附属小学校家庭科室が火事になったと想定し、話し合う。 (1) どうやって消防車が配置されるか予想し、話し合う。 どこに消防車が配置されるか考えよう。 ・消防車をなるべく家庭科室のまわりに集めよう。 ・どんどん水をかけるぞ。	◇学校周辺の地図を配布し、消防車を描き入れさせる。黒板に大きな地図を掲示し、実際に消防車の絵を動かしながら、自分の考えを説明できるようにする。 ◇湖山消防署にはどんな種類の消防車が何台あったかを確認しながら、配置を考えさせる。
(2) 湖山消防署が考えた配置を知り、消防署の配置には学校の消火設備や消防車の機能が大きくかかわっていることを知る なぜ、消防署の人はここに消防車を配置したのだろう。 ・消防車は意外と離れたところにあるぞ。 ・消防車から出ているホースが大切だね。 ・どこから水をとってくるかを考えていなかったね。	◇湖山消防署が考えた配置図を配布し、消防車や消防設備に着色させることで、正確に図を読み取らせる。 ◇資料のどこから読み取ったかを地図を指し示しながら発表させ、自分の考えの根拠を明確に説明できるように声をかける。
3. 農学部でも同様に消火計画がされていることを知り、その必要性について考える。 ・はしご車がどこにおけるのか、事前に調べているんだね。 ・火事するときだけが仕事じゃなくて、普段からも消防署内で仕事をしているんだね。	○4階建て以上（中高層建築物）の場合については、消火計画が事前に決められていること、実際に現地に行って配置を確かめていることを知らせ、事前の計画の大切さについて考えさせたい。 ◇「火災出動がないときには、こうした計画を立てる仕事もしている」という消防士の言葉を紹介し、消防署で働く人の取り組みを理解させたい。
4. 本時のふりかえりをノートに書く。	◇本時で得た概念を黒板に板書することで、本時の学びを確かにしたい。